

## ◆ R2年度第1回総合教育会議 「高校改革～夢に挑戦する学び～再編・整備計画について」(R2.9.14)

(当日有識者:東京大学教授・慶應義塾大学教授 鈴木 寛 氏)

- [2100年の子どもを育てる](#)ってどういうことだろうかということをもっと、もう一度、[多くの皆さんと問題意識を共有して](#)進む必要がある。
- 教育の中身が、[学習指導要領からどこまで離れるのか](#)というところもしっかり追求した上で、長野県として、学びを保障するということを明確に出していく必要がある。特に重要視してもらいたいと思っているのは、[協働とか協力](#)。今までの暗記型は完全に打破しなければいけないが、やっぱり自分の点数がよければいいという話ではなく、みんなで協力して実行していく、目的を達成していくということに、もっとも軸足を置いてもいいんじゃないか。
- 学校の話は、もちろん子ども中心に考えなければいけないと思っているが、そこに携わる人々がどういう役割を果たさなければいけないのかということをもっと、いま一度、再構築する必要がある。探究的な学びとか、ICTを通じた教育とかで[先生のあり方](#)は確実に変わるんだろうなと。それから[保護者の協力](#)とか、[地域の皆さんのサポート](#)とかについて、今は、学校の外部の人たちには、学校はとっつきにくいし、学校は閉じられていると思っている方もいる。それと同時に、やっぱり学校側からも、もっとこういうところは協力してほしいとか、こういうところは一緒にやりましょうということで、[多くの人たちがもっとも役割を果たせるような学校のあり方](#)というのを考えていかないと、やっぱり学校の中で閉じた環境というのは、もうこれは、多分、20世紀型だろうなと私は思います。
- 高校改革でやっていますけれども、やっぱり[幼稚園・保育園](#)や[市町村](#)、[私学](#)、こうした皆さんとも、大きな方向性は共有していくということが重要で、何か高校だけ変わったけど、ちょっと接続は悪いよねという話ではいけないなと思います。森のようちえんも小学校との接続が、結構、課題かなと思っていますけれども。そういう意味で、高校だけではなくて、そのほかの教育機関との連携も大事だし、問題意識の共有も必要だと思います。
- [学校同士のコラボレーション](#)は、ぜひ、教育委員会でしっかり考えてもらいたいなと思います。地域内、県内、県外、海外、もう[オンライン](#)を使えば、どこでもつなげるので、そういうこともしっかり意識したいと思います。
- 学校のあり方、県立市町村営みたいな話も、私はいいと思いますし、[公設民営](#)、[県立民営](#)とか、もう少し[柔軟な学校運営のあり方](#)を考えていかないと、多分、公設公営型というのは、22世紀型にはなかなか馴染まないような気もしているので、学校経営形態のあり方というのをも、いま一度、視野に入れて、今後、考えていくようになるだろうと思います。

## ◆ 第1回 教育未来創造会議(R3.12.27)

- 今、長野県では「[学びの県づくり](#)」を進めております。県の総合計画で、「学びと自治」の力を政策の推進エンジンとしようということで位置付け、子どもから大人まで県民が主体的に学び、個々の能力を發揮できる県づくりということで取り組んでいます。
- 具体的にいろいろな取組を書かせていただいておりますが、[高等教育](#)や[幼児教育](#)の振興、さらには、様々な新しい[私学](#)の立地が進んでいます。教育の充実こそが地域再生のカギだと考えております。
- 「国民所得倍増計画期」とありますが、ちょうど私は1960年生まれでありますけれども、まさに今の日本社会の基盤がこの頃に形作られました。教育もかなり大幅な変革が行われましたので、是非この「[新しい資本主義](#)」の基礎に「[学びの改革](#)」を置いていただきたい、と思っております。
- また、「学びの改革の視点と方向性」をいくつか書かせていただきましたが、ここはいろいろと議論があるところだと思いますが、「[とがった人材の育成](#)」、「[個性を伸ばす教育](#)」をしっかりと行っていくことが必要だと思います。そのためには、できるだけ[現場に分権していく](#)ことが重要ですし、[先導的な私学](#)をしっかりと応援していくことも必要だと思います。
- また、教員の在り方も変わってきますが、[教員定数の改善](#)や[自然保育](#)も是非進めていく必要があると思います。特に、[地方大学の充実・強化](#)や、[都道府県や市町村\(が独自に行う学び\)の取組](#)に対しても、是非とも国からの強力な支援を行っていただきたいと思います。是非、大胆な学びの転換と教育への投資を期待したいと思います。

## ◆ 教育未来創造会議 第1回ワーキング・グループ(R4.1.24)

- ここで申し上げたいのは、『[より分権型の教育制度](#)』ということであります。教育についても時代の大きな転換期にある中で、新しい取組がいろいろな所に出てきています。例えば、本県も、いわゆる「[森のようちえん](#)」、信州型自然保育の取組を進めていますが、[県独自の認証制度](#)をつくっています。その中で、一生懸命頑張っているところは、[認可外の保育所](#)が結構あります。そういう意味で、既存の教育の枠組みの外縁と言うとちょっと問題があるかもしれませんが、今の教育を変えていく時には、新たな動きをしっかりと後押ししていかなければいけないと思います。[教育を「画一」から「分権」へ](#)、ということで、ぜひ国全体でそうした方向で、できるだけ我々都道府県や市町村にお任せいただけるところは任せていただきたいというのが、一点目であります。

# 新しい資本主義は学びの改革から

(第1回教育未来創造会議提出資料)

2021年12月27日

長野県知事 阿部 守一



## 1 長野県における「学び」の県づくり

- 県の総合計画で、「学びと自治」の力を政策の推進エンジンとして位置付け。
- 「学びの県」づくりを推進：子どもから大人まで全ての県民が主体的に学び、個々の持つ能力を社会の中で発揮している県づくり。
- 長野県における主な取組と動き
  - ・「高等教育支援センター」を設置（2016年）し、松本大学、清泉女学院大学等の新学部設置や諏訪東京理科大学等の公立化を支援。
  - ・信州大学・長野県連携室の設置（2019年）
  - ・「長野県立大学」開学（2018年）：1年次全寮制。2年次海外プログラム参加。
  - ・小中学校全学年で30人規模学級を実現（2013年）
  - ・信州やまほいく（信州型自然保育）認定制度創設（2015年）
  - ・全寮制インターナショナルスクールの高校 ISAK（2014年）、  
イエナプラン教育の大日向小学校（2019年）、幼小中一貫校の軽井沢風越学園（2020年）など、先進的な私立学校が相次いで開学。
- 教育の充実こそが地域再生のカギ（人を育て、人をひきつける。）

## 2 国民所得倍増計画期（1960年代前半）における教育の充実

- 高校進学率急上昇（1960年57.7%→1974年90.8%）
  - 科学技術振興（理工系学生2万人増員計画、高等専門学校制度創設）
  - 学習指導要領第二次改訂（文部省告示。法的拘束力）
- 「新しい資本主義」の基礎にも「学び」の改革を置くことが必要ではないか。

## 3 学びの改革の視点と方向性

### （視点）

- 一人一人の能力を伸ばす学び
- 地域再生のための学び
- 人生100年時代の学び
- 国際人としての学び

### （具体的な取組方向）

- ①多様な学びと個性ある教育を実現する分権型の教育制度への転換
- ②教育改革を先導する私立学校や認可外学校への財政支援の強化
- ③きめ細やかな教育を実現するための小中学校、高校等教員定数の改善
- ④非認知能力等向上のための自然保育・幼児教育の推進
- ⑤地域活性化と人材定着のための地方大学の充実・強化
- ⑥地方が独自に行う学びの環境整備への支援強化（農業大学校、シニア大学等  
地方公共団体が開設する学びの場や民間のリカレント講座の開設・支援の充実）
- ⑦省庁横断的な教育システムへの転換（例えば、給付型奨学金制度は文部科学省  
所管の学校のみ対象などの課題がある。）
- ⑧海外留学に対する財政支援の強化（学生・社会人）

※いずれの項目でも大胆な転換と投資を期待。

## 全国知事会「これからの高等学校教育のあり方研究会」報告書の要点

### 【高等学校はどのような学びの場であるか】

高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とし（学校教育法第50条）、義務教育機関ではないものの、今日では中学校を卒業した生徒の大部分が進学する教育機関であり、義務教育において育成された資質・能力を発展させながら生徒の多様なニーズに応じた公正で個別最適な学びと協働的な学びを実現し、高等教育機関や実社会との接続機能を果たす役割がある。

高等学校が、初等中等教育最後の教育機関としての責務を十分に果たすためには・・

### ○ 高等学校の魅力化・特色化の推進

#### 『より分権型の教育制度』

- ・各学校において、地域や学校の実情に応じ、より効果的で特色あるカリキュラムを編成
- ・学校長がリーダーシップを発揮

#### 『社会に開かれ、地域と高校生が協働できる教育課程』

- ・地域ぐるみのキャリア教育の推進及び地域の課題発見・課題解決能力の育成
- ・教職員の確保、地域や大学等で活躍する人材の活用、学習空間や環境整備の充実

### ○ 高等学校の卒業時期及び修業年限の柔軟化

#### 『生徒の学習状況等による修業年限（学ぶ期間）の柔軟化』

- ・学習方法や内容と同様に学ぶ期間を個別最適化
- ・生徒の学習状況等により適切な修業年限を保障するため、学校教育法等関係法令の見直し

### ○ 大学の入学時期及び企業等の採用時期の柔軟化

#### 『大学入学時期の柔軟化（4月入学に加え、秋季入学を拡大）』

- ・生徒の多様化、教育のグローバル化に対応するため、大学の入学時期を柔軟化

#### 『企業・官公庁等の通年採用拡大』

- ・高等学校、大学と産業界の更なる連携促進

### ○ 学校間連携の促進

#### 『学校間のシェアとコラボレーション』

- ・学びの多様性に応えるため、複数の都道府県連携による教育リソースの確保とシェア
- ・高校生による大学教育の先取履修など高大連携の推進

### ○ 「オンライン教育」と「対面指導」のベストミックス

#### 『科学的エビデンスに基づいた政策決定』

- ・科学的な検証に基づいた、オンライン教育と対面指導のハイブリット化

#### 『日常的なICTの活用促進』

- ・生活困窮家庭の端末購入費や通信費に対する支援
- ・18歳以下の子どもがいる世帯の通信費の値下げ
- ・遠隔授業に関する要件の緩和や見直し